

# 1. 地域・児童・学校の概要

## 1) 地域

内小友地区は、大仙市の最南端に位置し、南は横手市大森町に隣接した、雄物川と出羽山地に抱かれた平坦地（内小友地区）と丘陵地帯（中山地区）から成る。学区域は、南北5km、東西12kmと広範囲である。歴史のある全校文集の題名になっていて、なだらかな傾斜が特徴の「成島山」がそびえ、学校報「おともがわ」の由来となっている小友川が流れている。

また、秋田自動車道、県立農業科学館、県立養護学校、大仙市丘陵運動公園、スマイルランチ（総合給食センター）等があり、新たな田園都市への中核地域として形づくられている。しかし、アクセス道路ができたことにより、交通量の増加と地区内の曲がりくねった細い道路状況により交通安全指導上の問題を抱えている。

地域の人々は、学校教育への関心が高く、とても協力的である。PTA活動、交通安全会活動、公民館活動、地区児童館活動、スポーツ少年団活動等も盛んであり、小学校の運動会も、内小友地区交流大運動会に組み入れられた形で実施されている。

## 2) 児童・保護者

今年度全校児童数は、97名で昨年度より3名減である。10年前と比べると半減しており、少子化が急激に進行しているが、ここ数年は100名前後で推移するとみている。

恵まれた自然の中で、児童は保護者や地域の方々に温かく見守られながら育っており、明るく、純真で、人なつっこい。諸調査から「自分には良いところがある」と自覚している子が多いという特徴も見られる。集団登下校グループやたてわりグループ活動により異学年交流が進み、互い思いやる気持ちも育っている。また、児童は内小友小学校を愛し、勤労意欲に富み、物事に真剣に取り組む。さらに、元気な体づくりをするため、かけ足やなわとび運動の継続により新体力テストの結果にも好影響を与えている。歯の健康・食教育・基本的な生活習慣形成においても家庭と連携し親子でチャレンジするようになった。

全職員が「心・体・学力」の3プロジェクトチームに所属し研究を継続していることの成果が児童の学力に反映されている。しかし諸テストの結果から、「読解力」「思考力」「表現力」を高める必要があることが判明し研修を重ねている。特別支援学級在籍児童および通常学級で支援を必要とする児童に対しても個別の計画にそった指導体制を構築している。

約4km1時間かかる遠距離も含め、ほとんどの児童は徒歩で登下校する習慣が身に付いている。また、中山地区の児童（4名）はタクシー通学をしており、下校時刻や放課後等、下校時刻までの過ごし方に特別な配慮をしている。

保護者は、サラリーマンがほとんどで両親とも市内周辺に勤務している方が多い。学習参観やPTA事業への参加率は高く、何事にも協力的である。

## 3) 学校

明治7年創立後、昭和50年4月旧内小友小と中山小の2校が統合し、内小友小学校となり、昨年度は創立140周年記念式典等を行った。現校舎は、昭和49年建設で老朽化が進んでいるが平成20年度、体育館と共に耐震補強工事が完了している。また、施設設備の整備として、トイレの改修と消雪用井戸の掘削が行われた。消雪に関しては、降雪時の残雪部分が多いため今年度配管等の一部改修工事を行う予定である。

平成7・8年の2カ年にわたり文部省指定・県教委委嘱「心身障害児理解推進校」、平成15・16年の2カ年にわたり文部科学省から「学力フロンティアスクール校」の指定を受け16年には公開研究会を開催している。22年、地域に根ざした食育活動に対し「東北農政局長賞」を授賞。

グラウンドは校舎に隣接しており、休み時間に遊ぶ子どもが多い。より快適な使用をめざし、盛り土を要望中である。プールは、老朽かつ道路脇にあり、安全面への配慮を要する。体育館・グラウンドとも学校開放しており、利用度も高い。

## 2 沿革概要

明治	7年11月15日	館前に五邑学校を設立する。
	12年7月5日	西川分教場を置き、五邑学校を館前小学校と称する。
	22年4月	館前小学校を内小友小学校と改称する。
	27年4月2日	内小友小学校を廃し、内小友東小学校と内小友西小学校の2校とする。
	43年6月6日	両校を合併して、内小友尋常高等小学校を今の地に創立する。
大正	元年11月15日	新校舎竣工。校舎は総二階と体操場、総建坪365坪8合3勺。
	4年4月2日	校舎焼失する。
	5年11月1日	新校舎落成する。
昭和	16年4月1日	学制改正により、内小友国民学校と改称する。
	21年8月3日	校舎全焼する。
	25年7月	第4期工事竣工し新校舎落成、総建坪625坪。
	29年5月3日	大曲市制施行にともない、大曲市立内小友小学校と改称する。
	31年6月5日	校歌制定、作詞～佐々木胖氏、作曲～佐藤長太郎氏。
	38年3月20日	校章制定。
	39年7月13日	新プール工事完了する。
	49年8月9日	鉄筋コンクリート3階建新校舎竣工する。
	49年10月29日	百周年記念式典・校舎竣工祝賀会施行する。
	50年4月10日	内小友小学校、中山小学校統合式を行う。
	53年5月24日	斎藤憲三賞「金賞」を受賞。
	53年8月8日	全県子ども貯金組合「県教育長賞」を受賞。
	53年9月20日	大曲市教委指定「学習指導研究(算数, 理科)」を公開する。
	55年12月25日	新体育館竣工する。
	56年1月7日	ミニバスケットボール全県大会優勝、全国大会(3月26日)出場。
	56年1月26日	吹奏楽アンサンブル県大会、銀賞。
	56年10月4日	新校門の除幕式を行う。
	56年10月9日	大曲市教委指定「研究(特別活動, 学習指導)」を公開する。
	56年11月18日	学校の前庭、全面舗装する。
	57年7月25日	受水槽を新設する。
	57年10月4日	大曲仙北教育研究会算数部会研究会を公開する。
	58年1月30日	吹奏楽アンサンブル県大会出場、金賞受賞。
	58年2月6日	吹奏楽アンサンブル東北大会出場、銀賞受賞。
	59年11月10日	低学年用砂場が完成する。
	59年11月14日	創立110周年記念式典を行う。記念植樹する。
	60年5月16日	旧中山小, 旧内小友小統合10周年記念植樹をする。
	60年10月4日	大曲市教委指定「研究(特別活動, 図工, 学習指導)」を公開する。
	60年11月14日	旧中山小, 旧内小友小統合10周年記念式典を行う。
	61年4月25日	一輪車30台購入。
	61年5月6日	大砂場(2間×4間)完成。
	61年8月18日	校舎前に位置明示の標注を建立する。
	61年9月25日	前庭に正規の消雪設備完成。
	61年9月29日	管理棟の東側に簡易舗装(なかよし広場)が完了する。
	61年12月15日	P T Aより学校へ楽器が21台寄贈される。
	62年6月11日	なかよし広場舗装完了, 小友山造成完了。
	62年8月10日	体育館暗幕設置～P T A廃品回収収益金。
	63年12月30日	前庭花壇工事完了。
平成	元年10月2日	物置設置～P T A廃品回収収益金。
	3年7月31日	全県子ども貯金組合, 秋田県知事賞受賞。
	3年11月30日	体育館外装工事完了。
	4年1月17日	カラーテレビ10台を普通教室に設置～P T A廃品回収収益金。
	4年8月10日	全日本吹奏楽コンクール秋田県大会, 優秀賞。
	4年8月20日	東北ミニバスケットボール大会, 優勝。
	5年8月6日	ドイツスポーツ少年団を迎え国際交流を行う。
	5年9月28日	大曲仙北理科研究発表会, 最優秀賞受賞。
	5年10月5日	大曲仙北特殊教育研究会会場校公開研究会を開く。
	5年12月18日	第17回日本標準教育賞, 優秀学校賞受賞。
	5年12月27日	上水道完成する。

6年	5月	5日	全国善行児童善行賞受賞。
6年	8月	2日	J R学童野球大会郡優勝, 同県大会準優勝。
6年	11月	16日	学校創立120周年記念式典を挙行, 記念誌「おともがわ」を刊行。
7年	7月	14日	文部省指定・県教委委嘱「心身障害児理解推進校(2カ年)」になる。
7年	11月		体育館ステージに上下スライドパイプ2本設置。
8年	9月	27日	心身障害児理解推進校公開研究会。
8年	10月	22日	大曲仙北造形教育研究大会会場校。
9年	4月		文部省指定・県教委委嘱「心身障害児理解推進校」感謝状をいただく。
9年	6月	11日	人文字航空写真撮影～交通安全の集い。
9年	8月		パソコン設置, 2階廊下壁面塗装。
9年	10月		第26回マーチングバンド・バトントワリング東北大会, 優秀賞受賞。
9年	11月	12日	普通教室に温風暖房機14台設置。
10年	8月		職員玄関及び児童玄関風除室設置。
10年	9月		第37回秋田県理科教育研究大会会場校(3年:農業科学館, 4~6年:本校)。
10年	10月		ボイラー撤去作業完了。特別教室に温風暖房機を設置する。
11年	7月		プールシャワーの水道工事完了, 全校児童わらび座劇場にて演劇鑑賞。
11年	9月		ふるさと感謝祭開始～ふるさと子どもドリーム支援事業。
12年	6月	2日	花いっぱい活動開始～ふるさと子どもドリームアップ事業。
12年	7月	5日	プール上水道工事完了。
12年	7月	19日	20日まで一泊二日のわくわくふるさとどきどきキャンプ開始～ふるさと子どもドリームアップ事業。
12年	8月	1日	非常階段改装工事完了。
13年	6月	8日	図書ボランティア「ポケット」発足。
13年	6月	22日	防犯看板設置式を行う。
13年	7月		プール洗顔・シャワー器の取り替え, トイレのタイル張り替え工事を行う。
13年	12月	10日	体育館入口塗装工事を行う。
14年	2月	2日	パソコン室内塗装工事を行う。
14年	8月	30日	パソコン設置作業(児童用12台 教師用3台)完了する。
14年	10月	18日	校内LAN配線工事(職員室)を行う。
15年	6月	23日	お話ビデオ贈呈式(フレッシュたんぽぽ会)。
15年	8月		パソコン室・保健室に冷房装置設置。
15年	12月		地域イントラネット事業に関わる作業を行う。パソコン(児童用21台)とプラズマディスプレイを設置する。
16年	2月		揚水ポンプを設置する。
16年	10月	15日	郡理科研究発表会にて「学校賞」受賞。
16年	10月	21日	学力向上フロンティア公開研究会を開催する。
16年	11月	7日	創立130周年記念集会を行う。
16年	11月	18日	優良校として「秋田県よい歯の学校表彰」を受ける。
17年	3月	22日	市町村合併により大仙市立内小友小学校と改称する。
17年	5月	23日	「みんなの登校日」開始。
17年	10月	31日	花いっぱい運動花壇コンクール「優秀賞」受賞。
18年	11月	4日	花火大会翌日の西地区小・中学校合同「花火の里のクリーンアップ」が明るい社会づくり運動県南ブロック協議会から表彰される。
19年	8月	21日	本校を訪問した韓国の児童と全校児童が交流する。
19年	9月	28日	秋田わか杉国体のために来県の天皇皇后両陛下を奉迎する。10月2日は全校児童が大曲球場にて軟式野球を応援観戦する。
20年	6月・10月		文部科学省「豊かな体験活動推進事業」の「農山漁村におけるふるさと生活体験推進校」として「わくどきキャンプ夏(6/24-6/26, あきた白神体験センター泊)」「わくどきキャンプ秋(10/21-10/23, 仙北市農家泊)」を全校児童が参加して行う。
20年	10月	15日	耐震補強工事(体育館, 教室棟1階2階, 管理棟2階3階, 3月15日まで)を行う。
22年	3月	19日	地域に根ざした食育活動が認められ, 「東北農政局長賞」授賞。
22年	11月	26日	花巻市小・中学校副校長会視察(学力向上に向けた取り組みを紹介)。
23年	10月	21日	わくどき町探検を初めて実施する。
24年	9月	25日	校内トイレ洋式化改修工事完了。
24年	11月	13日	「大曲仙北小・中音楽祭」に全校児童初参加。
25年	12月	5日	仙台市立愛子小学校職員学校視察。
26年	11月	21日	創立140周年式典を行う

### 3 歴代校長

<統合前>

内小友小学校		
氏名	期間	出身地
阿部 荒男	明治44～大正 2. 3	刈和野町
久米 禮吉	大正 2～" 5. 3	金澤西根村
佐藤 竹治	" 5～" 8. 3	金澤西根村
石河 鐵之輔	" 8～昭和 3. 3	花館村
椎名 信男	昭和 3～" 5. 3	角館町
太田 哲雄	" 5～" 7. 3	阿氣村
峯山 徳蔵	" 5～" 7. 3	川西村
遠藤 彌太郎	" 8～" 16. 3	浅舞町
大釜 松治	" 16～" 19. 3	中仙町
中村 勝郎	" 19～" 21. 3	大曲町
佐藤 長太郎	" 21～" 23. 3	大曲町
富沢 一致	" 23～" 24. 3	仙北村
厨川 淑三	" 24～" 27. 3	角間川町
伊藤 明男	" 27～" 30. 3	大曲市
伊藤 建治	" 30～" 36. 3	大曲市
佐藤 勇	" 36～" 39. 3	大曲市
梁田 政三	" 39～" 45. 3	六郷町
高橋 忠四郎	" 45～" 50. 3	大曲市

中山小学校		
氏名	期間	出身地
瀧澤 敬治	明治39～明治42. 6	藤木村
守屋 武雄	" 42～昭和 2. 3	内小友村
半田 恭助	" 2～" 3. 3	南揚風村
稲森 新三郎	" 4～" 7. 3	上野市
古屋 竹治	" 7～" 27. 3	内小友村
根田 正虎	" 27～" 28. 3	外小友村
掛札 貞	" 28～" 32. 3	横手市
戸嶋 貞一	" 32～" 37. 3	大曲市
嶋津 勇	" 37～" 42. 3	大曲市
本郷 龍男	" 42～" 44. 3	大曲市
加藤 弁五郎	" 44～" 48. 3	大曲市
三浦 志良	" 48～" 50. 3	大曲市

\*明治7年開校，明治44年2月までの校長は学校が東西に分かれていて不明のところがあり，割愛。

<統合以降>

	氏名	期間	出身地
初代	高橋 忠四郎	昭和50. 4～昭和51. 3	大曲市藤木
2代	山形 英夫	" 51. 4～" 54. 3	角館町下延
3代	佐藤 智弘	" 54. 4～" 56. 3	大曲市栄町
4代	齋藤 重一	" 56. 4～" 61. 3	大曲市丸子町
5代	富樫 耕次郎	" 61. 4～" 63. 3	六郷町六郷
6代	半田 清助	" 63. 4～平成 3. 3	仙南村金沢
7代	小松田 正司	平成 3. 4～" 5. 3	横手市前郷
8代	佐々木 勇	" 5. 4～" 8. 3	大曲市若竹町
9代	加藤 貞子	" 8. 4～" 11. 3	大曲市福見町
10代	佐藤 弥生	" 11. 4～" 16. 3	大曲市朝日町
11代	藤嶋 暢男	" 16. 4～" 18. 3	角館町細越町
12代	藤原 保子	" 18. 4～" 19. 3	大仙市協和
13代	枝川 宏子	" 19. 4～" 22. 3	大仙市角間川
14代	加藤 功	" 22. 4～" 26. 3	仙北郡美郷町
15代	鈴木 秀	" 26. 4～	仙北郡美郷町

## 4. 経営の基調

～ 生きる力を育むために ～

### 1) 人間関係を深め、豊かな人間性の育成に努める

少子化現象、核家族化の増加に伴い、人間関係が希薄になり友達との人間関係をつくれず、孤立化する場合も少なくない。本校の場合はすべて単学級で、人間関係が固定化するところも心配される。そこで、同学年・異学年、大人などの様々な人たちとの意図的計画的な活動を通して、自他の良さや関わり大切さを実感させ、社会で生きていくための豊かな人間性の育成に努めたい。

「学校が楽しい」「友達との活動が楽しい」という気持ち、「ありがとう、おかげさま」の感謝の心、「私にできることであれば」の奉仕の心を育てたい。

### 2) 健康・安全な生活をめざし、体づくりに努める

生きる力らの基盤となるものは、体である。丈夫な体無くしては学力も心も育てることはできない。生活様式・食生活の急激な変化、子供を取り巻く社会環境の急激な変化に流される傾向に歯止めをかけ、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基盤づくりに努めたい。

基本的な生活習慣の確立、食育、運動の奨励等々、保護者・地域と同一視点で取り組みたい。

### 3) 確かな学力の育成をめざし、学習指導の改善と充実を図る

学校の役割は子どもに確かな学力をつけることである。その基となるのは授業である。その授業は、子どもにとって分かったと実感でき、成就感や充実感が感じられるものでなければならない。さらに、子どもたちの受け身の学習ではなく、自分で考え、自分で解決の方法を発見できるようにすることや自分を表現し、友達や先生と学びあい高めあう学習の成立が重要である。

個々の子どもが「自分でできる」と自信をつけたり、「もっと知りたい、調べてみたい」と主体的な学習をすることによって、学習の自立が促がされ子どもたちにより確かな学力が育成される。

### 4) 家庭・地域との連携を深め、信頼される学校づくりに努める

学校は、家庭や地域にとって“心の拠り所”でありたい。自分の子どもが通学している学校は、安心して任せられる学級・学校でなくてはならない。

地域の宝である子どもたちを、学校・家庭・地域のそれぞれの役割を自覚し、連携して育てていくことが重要である。だからこそ、学校としてやるべきことは徹底して努力する。「知」の面で、教科指導はもちろん総合的な学習の時間等では、地域の素材や人材の積極的な活用を図りたい。さらに、「心」・「体」のよりよい成長には、共通認識をもって協働で取り組む必要がある。そのために、開かれた学級・学校運営に努めることが大切である。さらに、地域に貢献もできる学校でありたい。

## 5 経営の全体構想

日本国憲法

教育基本法

学校教育法

関係法令

秋田県学校教育が目指すもの 豊かな人間性をはぐくむ学校教育

キャリア教育の視点を重視したふるさと教育の推進

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 1 思いやりの心を育てる | 2 心と体を鍛える   |
| 3 基礎学力の向上を図る | 4 教師の力量を高める |

「問い」を発する子ども七つの「はぐくみ」

南の学校教育の重点

授業で勝負

～子どもも教師も 目が輝いている授業～

- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| 1 特色ある教育活動の推進         | 2 心豊かでたくましい児童生徒の育成 |
| 3 確かな学力の向上を目指す学習指導の充実 | 4 実践的指導力を高める研修の充実  |

大仙市の教育目標

生きてはたらく知恵を育み、創造力にあふれる人づくり  
～共(ともに)創(つくる)考(かんがえる)開(ひらく)～

大仙市学校教育の基本方針

学校力を高め、家庭・地域社会に信頼され、  
子どもたちの「生きる力」を豊かなものにする学校教育  
「総合的な学力」の育成

大仙市の学校教育の重点

- 子どもたちにとって楽しく明るい学校づくり  
・子どもたちの「心の居場所」があり、喜んで登校できる学校
- 創意工夫を生かした特色ある学校づくり  
・感性や主体性、創造性を育む特色ある学校
- 学力・心力・体力がステップアップできる学校づくり  
・より一層、知と心と体の力のバランスのとれた子どもを育む学校
- 家庭や地域社会と一体となった安全・安心で開かれた学校づくり  
・地域社会や家庭への情報発信を推進し、地域と共につくる学校

本校に関わる実態

- 本校児童の実態
- 地域の実態
- 保護者の願い
- 地域の期待

学校教育目標

にこにこ きらきら ゆめにむかって  
～みんなで育む豊かな心・健やかな体・確かな学力～

きらきら光る子ども

- 思いやりのある明るい子ども 「徳」
- ねばり強くやりとげようとする子ども 「体」
- 進んで学習に取り組む子ども 「知」

きらきら光る教師

- 教育課題の解決に向け、自己研修に努め、常に研鑽を怠らない教師
- 豊かな人間性を備え、自然愛・人間愛・地域愛に満ちた教師
- 何事にも主体的に取り組み、幅広い実践的指導力を磨く教師

きらきら光る学校

- ひとりひとりのよさを大切にする学校
- 共に学び合い、高め合い、関わり合う活力あふれる学校
- 家庭、地域と共に歩む学校

## 本年度の重点事項 ～ゴールの姿を見据えて常にPDCA～

### 1) 思いやりの心を育てると共に、豊かな人間性の育成に努める

- ① 自他の良さを生かし認め合う活動の推進を図る
  - ・自分や友だちの成長をしっかり自覚できる手だてを工夫する
  - ・全ての活動において認め合う活動を展開し、自主的に活動する実践力を育成する
  - ・機能的、組織的な生徒指導の推進と特別支援教育の充実に努める
- ② 体験活動の充実に努める
  - ・ハローの会等の交流活動やボランティア・エコ活動の推進を図る
  - ・あいさつ・返事運動や全校縦割り活動の充実に努める（清掃、集会、学校行事等）
  - ・稲作等の農園活動、花壇の世話、校内外の環境美化活動等の学校を愛する活動の展開を図る
- ③ 集団の一員としての自覚と充実感を持たせる
  - ・学級、学校の一員であることを自覚する機会を多くする
  - ・集団の力によってなし得る活動の機会を多くする（委員会、児童会、学校行事等）
  - ・集団活動の振り返りを重視し、失敗経験等を次の活動に生かす実践に努める

### 2) たくましく生きる体を育てる

- ① 基本的な生活習慣の定着を図る
  - ・早寝、早起き、朝ご飯の徹底に努める
  - ・規範意識の定着と実践力を養う
  - ・めあてに向かい粘り強くものごとに取り組み、やり遂げようとする気持ちを育てる
- ② 体力づくりの習慣化を図る
  - ・徒歩による登下校を継続する
  - ・かけ足運動等の体力づくりに励む習慣の形成を図る
  - ・スポーツ少年団との連携を図る
- ③ 保健安全指導の徹底を図る
  - ・歯みがきやフック物洗口、給食指導・食育による保健衛生の習慣化を図る
  - ・校内外の安全点検と管理、定期的な下校指導、安全教室、避難訓練等を実施する
  - ・校外での安心・安全の徹底に努める

### 3) 基礎学力の向上を図り、主体的に学ぶ力を育てる

- ① めあて(到達目標)のはっきりした授業を行う
  - ・めあての実現に向け、じっくりねばり強く、意欲的に取り組む学習や活動の工夫に努める
  - ・「基本的な学習習慣」の徹底及び「学びのツール」の蓄積と活用を図る
  - ・TTや習熟度別指導など、教科や単元によって弾力的な指導の工夫に努める
- ② 主体的な取り組みを促し、楽しくわかりやすく成就感のある授業づくりに努める
  - ・より心を開き、楽しく成就感の持てる授業や活動の推進
  - ・自力解決の機会や互いに学びあう機会などの主体的な学びにつながる学習の工夫に努める
  - ・自分の考えをしっかりと持ち、表現すると共に互いに練り合い高めあう学習の充実に努める
  - ・自らの成長が自覚でき、次への意欲につながる評価に努める 「できたよノート」の活用
- ③ 基礎的な学力について随時チェックを行い、定着を図るとともに個に応じた指導にも努める
  - ・個に応じたTTや個別指導の機会を多くする
  - ・児童の学力分析(国・県学習状況調査、チャレンジテスト、CRT etc.)を的確にする
  - ・分析を元に補充的な学習と反復的な学習の推進(チャレンジタイム、宿題、家庭学習)を図る

### 4) 家庭・地域との連携を深め、信頼される学校づくりに努める

- ① 開かれた学校運営の推進を図る
  - ・校報の発行、HP及び機関への校報設置等を活用し情報発信に努める
  - ・地域の有能な人材の積極的な協力を求める（余目いきいき会議協議会等の活用）
  - ・PTA活動の充実に努め保護者との連携を深める
- ② 家庭・地域と連携した安全指導の徹底を図る
- ③ 地域と一緒にあいさつ運動の充実に努めると共に地域行事への積極的な参画を推進する

\*全職員で「豊かな心」「健やかな体」「確かな学力」の3つのプロジェクトチームを編成し、目標の具現化に向けた施策を推進する